

『うるおいある豊かな環境に
つまれるまち まつさか』



松阪市長 下 村 猛

京都議定書の約束期間である 2008 年を迎え、地球温暖化問題は、私たちが最も取り組まなければならない環境問題のひとつとして位置づけられようとしています。本市域における二酸化炭素（CO₂）排出量（2004 年）におきましても、約 102 万トンを排出しており 1990 年比で 13% 余り増加しています。地球温暖化対策への取り組みは、市はもとより、市民、事業者を含めたすべての方々の参加と協力が必要です。

このような状況の中、本市では、「うるおいある豊かな環境につつまれるまちまつさか」をめざすべき環境像として、昨年 9 月に松阪市環境基本計画を策定いたしました。そして、環境像の実現にあたり、環境と地域経済、環境と人との関係を見直し、新たな視点に立った環境政策の展開が必要であると考え、「自然と人・地域の活力が好循環するまちづくり」を環境像実現の基本的な考え方として示しました。

この環境像実現に効果的な取り組みであるのが太陽光や風力、バイオマス（生物由来の有機性資源）などの自然エネルギーの利活用であります。これらのエネルギーの利活用は、化石燃料の使用を削減し地球温暖化防止に貢献するとともに、地域の活性化にも寄与するものであると考えます。

松阪市地域新エネルギービジョンは、こうした環境負荷の少ない新エネルギー関連施策を一層推進するために必要となる基礎データの調査、重点プロジェクトの検討を行い、地域の特性を踏まえた新エネルギー導入の指針として、NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）の助成を受けて策定したものです。今後は、ビジョンの具体化に向けて、新エネルギーの普及啓発を図るとともに、市民・市民団体、事業者の皆さまとともに取り組んでいきたいと考えております。

最後に、本ビジョンの策定にあたり、貴重なご意見をいただきました市民の皆さまをはじめ、ビジョン策定委員並びに関係者の皆さまに心から感謝申し上げます。